

# 個に応じた指導の充実

新しい学習指導要領では教育内容を厳選し、時間的・精神的なゆとりを活用して、子ども一人一人の理解の状況や習熟の程度などに応じたきめ細かな指導を行うことが可能となっています。学校では、学習指導要領の内容の理解が十分ではない子どもには、繰り返し指導など補足的な学習によってつまづきを克服し、理解が十分な子どもには、その理解をより深める等の発展的な学習により、さらに力を伸ばしていきます。

東京都にある新宿区立余丁町小学校、5年生の理科の時間。前の時間までに「どんな情報を調べれば、天気の変化は予想できるか」について学びました。今日は、2つのグループに分かれて授業を行っています。

一つは、前の授業でテレビや新聞などの気象情報を活用して、自分なりの天気の変化を予想するやり方をつかんだグループ。今日は、インターネットで「気象衛星の雲画像」や「アメダス(降水量)」、「ライブカメラ」などの情報を集めたり、地域の天気に関する言い伝えを調べたりして、さらに多くの情報をもとにして天気の予想しようとしています。



もう一つは、自分なりの天気の予想のやり方が決まっていないグループ。屋上で雲の色や動き、量などをじっくりと観察したり、「気象衛星の動画の雲画像」を見たりして、雲の動きと天気の変化を関連付けて考えて、天気の変化を予想しようとしています。

子どもたちからは、「今、富士山に雲がかかっているかどうかが見られておもしろい。」「ひまわりの動画を見ると雲の動きがよく分かる。」「インターネットには、役に立つ天気の情報がたくさんある。」といった感想が聞かれました。

小学校5年生の理科では、1日の天気の様子を観測したり、映像などの情報を活用したりして、天気の変り方を調べ、天気の変化の仕方についての考えをもつようにします。

群馬県太田市の立九合小学校では、2年生から6年生の算数で、単元ごとに学年3クラスを「のびのびコース」(基礎・基本コース)3グループと「チャレンジコース」(発展コース)1グループに分け、習熟度別指導をしています。コース分けにあたっては、事前にテストを行い、その結果をもとに子どもが保護者や先生と相談し、コースを選択します。

## 1 のびのびコース

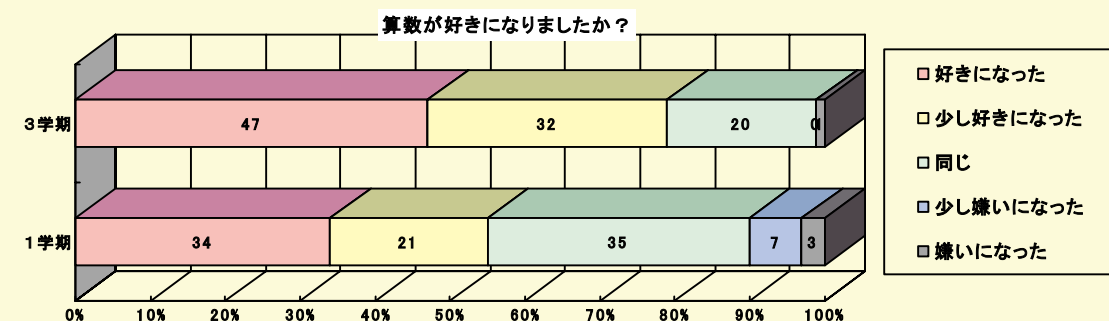
- ・全ての子どもたちに「わかる喜び」を味わわせることを目指し、少人数の学習クラスで、よりきめ細かに指導します。週1度はさらに先生が一人加わってチームティーチング(※)での指導を行います。

※ TT：複数の先生が協力して授業を行うこと

## 2 チャレンジコース

- ・学習の目標は「のびのびコース」と同じですが、難しい問題に挑戦することを通して、学ぶことの楽しさを味わわせます。

習熟度別指導により、算数への興味、関心、学習意欲が大きく高まりました。1年間、習熟度別指導を実施した後、子どもに対しアンケートをとったところ、1学期と3学期を比べて「算数が好きになった」「少し好きになった」と答えた子どもの割合が合わせて55%から79%に、「算数の授業が楽しくなった」「少し楽しくなった」と答えた子どもの割合が合わせて59%から81%にそれぞれ増えました。



また、「算数のテストの点が良くなった」「少し良くなった」と答えた子どもの割合も、合わせて66%から76%に増えています。

## Q&A

Q: 習熟度別指導は子どもたちに優越感や劣等感を与えませんか？

A: 学校では、習熟度別指導のグループ分けをするにあたり、子どもたちに優越感や劣等感を与えないよう、様々な工夫をしています。学習状況に応じて弾力的にグループを再編成する、教科ごとにグループを変える、あるいはグループを決める際に子どもたちの希望を踏まえる、などはその一例です。

# 個に応じた指導の充実

たたらちゅうおう

福岡市立多々良中央中学校では、全員に対し一斉に同じ内容の授業を行う「一斉授業」では生徒たちの理解に限界があると考えました。

そこで、複数のコースを設けることとし、どのコースにするかは、単元ごとに最初の時間にテストを行い、その結果などをもとに、生徒自身が決めています。

## 1. 「教科書がゴール」コース: 基礎・基本を重視するコース

一つ一つの学習内容を何度も繰り返し学ぶとともに、必要があれば小学校や前学年の内容まで立ち戻って学びます。教科書の内容の理解を目標としています。

赤い辺

青い辺

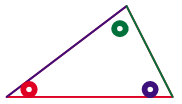
緑の辺

赤い角

青い角


緑の角

の中で、3つだけを使って、下の三角形と合同な三角形を作ろう。



## 2. 「教科書からスタート」コース: 発展、応用まで進むコース

教科書の内容を中心に学習を進め、基礎的・基本的内容を習得した後は、発展的・応用的内容の学習に進みます。



上の三角形と合同な三角形をコンパスや分度器・定規を使って作図し、どれだけの条件(辺の長さ・角の大きさ)がそろえば合同な三角形となるかまとめよう。

### 三角形の合同条件

2つの三角形は、次のどれかが成り立つとき合同である。

①3辺がそれぞれ等しい。



②2辺とその間の角がそれぞれ等しい。



③1辺とその両端の角がそれぞれ等しい。



具体的に理解する

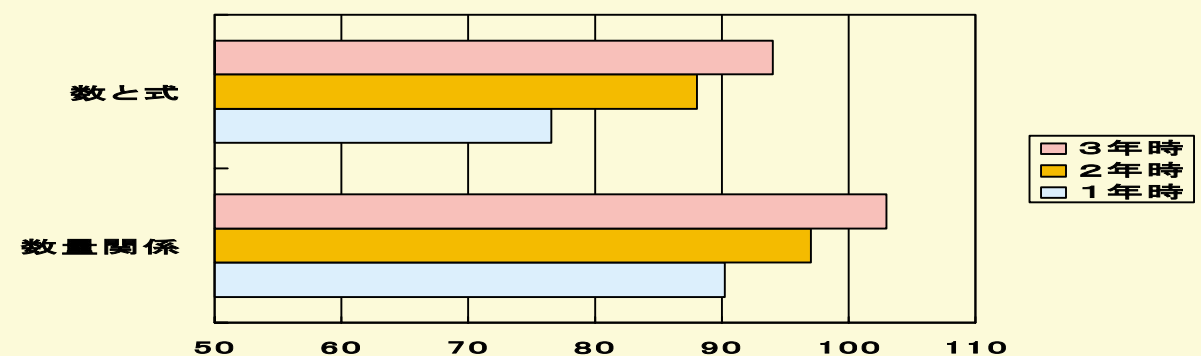
論理的に考える

中学校2年生の数学では、三角形の合同条件を理解し、それに基づいて三角形の性質を論理的に確かめることができます。

その結果、2つの大きな成果が得られています。

### 1. 成績の向上

習熟度別指導を3年間にわたって実施した学年では、数学のテストの成績が向上しました。全国平均を100としたポイントが、1年次から3年次にかけて、「数と式」の問題で76.5から94.0に、「数量関係」の問題で90.2から103に大きく伸びました。



### 2. 学ぶ意欲の向上

アンケート調査の結果、数学が好きな生徒は67%にのびりました。また、習熟度別指導が自分にとってよいと思う生徒は97%と多く、その理由としては「自分にあったペースで勉強できる」、「少人数の方が質問しやすい」というものがあり、特に基礎・基本コースでは「間違っても恥ずかしくない」、「先生が一人一人をよく見てくれる」という理由があげられています。

### 数学は好きですか？



数学の授業をコースに分けて行っていることは、あなたにとってよいやり方と思いますか？

